

令和4年度 第1回 清瀬市史編さん委員会  
議事要旨

日 時： 令和4年8月4日（木）  
午後3時～4時  
場 所： 市民協働ルーム（本庁舎2階）  
出席委員： 根岸茂夫、栗山 究、谷口康浩、黒川徳男、高久 舞、齊藤隆雄、齊藤靖夫、  
黒田一美、今村広司（9名）  
欠席委員： 浅倉直美、吉田律人、小西一午（3名） 岡田耕輔（物故）  
事務局： シティプロモーション担当部長、同課長、市史編さん室職員2名（4名）

《次 第》

1. 開 会
2. 『清瀬市史 6 資料編 現代』について
3. 専門部会活動状況について
4. 『市史研究 きよせ』第8号について
5. 市史講演会について
6. その他
7. 閉会

《配布資料等》

1. 会議次第（令和4年度 第1回 清瀬市史編さん委員会 次第）
2. 『清瀬市史 6 資料編 現代』の主な内容について【資料Ⅰ】
3. 民俗部会報告【資料Ⅱ】

《審議経過》

1. 開 会

委 員 長

定刻となりましたので、これより令和4年度第1回清瀬市史編さん委員会を開催いたします。

無事、資料編の2冊目もなんとか出ましたので、順調に進んでいるかと思っておりますが、そういう中で、悲しいお知らせが入ってきました。岡田耕輔委員が7月15日に急逝されました。岡田委員は、郷土博物館協議会会長として清瀬の歴史に高い関心を持たれており、清瀬市史の刊行を楽しみにしておられただけに、最後まで刊行を見届けていただけないのが残念です。ここに謹んで哀悼の意を表し黙祷をささげたいと思います。みなさまご起立いただけますでしょうか。岡田委員のご冥福をお祈りしまして、黙祷をささげます。黙祷。

ありがとうございました。

それでは、委員会を進めてまいります。

前回委員会の後、澁谷桂司新市長の下 5 月 1 日に組織改正が行われ、市史編さん室は、企画部シティプロモーション課の所属となりました。前市史編さん室長であります植田さんが企画部シティプロモーション（CP）担当部長とされましたので、今回より市史編さん委員会にご出席いただいています。ご挨拶をお願いします。

CP 担当部長 皆様には市史編さんにあたりご協力賜りましてありがとうございます。この事業が始まった平成 26 年度から 3 年間、市史編さん室長としてお世話になりました。今年 5 月の組織改正に伴いまして、改めまして市史編さん室を所管することとなりましたので、引き続きどうぞよろしく願いたいいたします。

委員長 ありがとうございます。委員会立ち上げのときにたいへんお世話になりました。またご一緒いただけるということで、楽しみにしております。議事に入ります前に、配布資料について事務局よりご説明をお願いします。

事務局 配布資料説明

## 2. 『清瀬市史 6 資料編 現代』について

委員長 では、議事に入ります。まず『清瀬市史 6 資料編 現代』についてです。最初に、印刷製本業者について、事務局からお願いします。

事務局 印刷製本業者が決まりました。『清瀬市史 6 資料編 現代』は、明誠企画株式会社に決まりました。明誠企画株式会社は、『市史研究 きよせ』第 6 号を担当した会社で、自治体史としては府中市史を手がけています。

委員長 では続いて、部会長の黒川先生から、内容と進捗状況についてお話しください。

現代部会長 進捗状況としましては、どの資料を掲載するかという候補については 9 割がた決まっています。まだ決まっていないところがあることと、資料の出方によって多少アンバランスになるところはあるかと考えています。こういった資料集は、戦前、戦中の部分、昭和 20 年代のものがおもしろいと思いますので、その部分を予定より大きくしていくことを今は考えています。筆耕については 6～7 割終わっています。昭和 30 年代より前については、終了している分野もある状況です。

清瀬についてあまり知らない読者が読むことも想定して、第 1 章に地誌類を掲げました。第 2 章については、農業関係の資料に注目していただきたいと思います。いまの農協にあたる産業組合が昭和 12 年につくられています。一般的には日露戦争後につくられることが多いのですが、清瀬の場合は遅いという特徴があります。第 6 節の教育については、青年訓練所や昇進農業公民学校の資料が出てきております。これらは後に合併して青年学校になります。青年学校の資料も多くあります。

村と戦争については、在郷軍人会についての資料があります。第 8 節

については結核療養編が別に作られますので、村から見た結核療養所、村の中での伝染病対策といったことが中心になります。第 2 章については筆耕がほぼできています。

第 3 章「青年学校の世界」は、昭和 10 年から 19 年までの青年学校の日誌から厳選して掲載します。第 4 章は戦後改革の時期にあたります。当時の革新系村長と地主系の議員との間で鋭い対立がありました。そういう資料をとりあげます。第 4 節の戦後の交通については、糞尿輸送の話ははずせませんので資料を掲載します。戦後の教育については、六三制が始まり中学校がつくられていくということが中心になります。

戦後処理についてですが、戦中の清瀬には照空隊や大和田通信所など、軍関係の施設がありました。建物の処理に関する資料がありますので掲載します。戦後についても医療関係は掲載します。

第 5 章「農地改革下の村」ということで、清瀬には極端な大地主がいたわけではありませんが、畑作地帯で、地主にとっては土地の取上げは死活問題ということで異議が出されています。載せ方が難しいのですが、名前は伏せる、どこの土地かわからないようにするなど工夫をして載せたいと思います。

第 6 章は高度成長の時期についてです。戦後の、例えば農協について、大林組技術研究所についてもこの章に掲載します。第 4 節では都市化によって発達する交通の問題、団地の問題、第 7 章では安定成長からバブルの時期についてですが、この時期の市政に関する資料はあるのですが、内容、性格から載せにくいところがあります。ただ労働組合の動向は、この時期から再編成があり役所の労働組合の資料があるので載せていきたいと考えています。第 3 節の清瀬駅北口再開発は、たくさん資料があります。第 5 節の「都市化と農村」ですが、自然を守っていこうという自然を守る会の活動資料、緑地の保全について、掲載したいと思います。

第 6 節「教育問題と地域」というところで、校内暴力やいじめについて資料はありますが個別事例のため掲載には適さないと考えていますが、市の側が教育相談室を拡充するなどしているの、載せられる資料はあると考えます。

第 8 章「平成不況下の清瀬」で、ダイオキシンの問題についてはたくさん資料があります。全国にさきがけて条例を定めているといった資料がありますので、載せたいと思います。衛生問題であったゴミの問題が資源の問題に変わっていくのがこの時期です。リサイクルについての動き、ごみの分別なども入ります。行政のありかたが市民参加型に変わってきたのもこのころです。少子高齢化の問題も出てきます。

第 9 章では文化財の保存ということ、民俗分野との住み分けを念頭に、現代の資料編では寺院と神社は扱わず、文化財の指定、博物館の建設、あらたな祭りの創出ということで構成します。

最後に統計・データ編として、人口統計の月ごとの数字を広報から拾っていこうと考えています。人口統計と団地建設をリンクさせられればと考えています。歴代市長・議長なども巻末に載せます。

概要は以上です。

委員長            ありがとうございます。概要をお話いただきましたが、なにかございますでしょうか。

委員              統計データのところですが、歴代市長などを掲載するというので、

今であれば副市長、以前ですと助役、そういった方々も載るのでしょうか。助役の方など、活躍した方もあるので、載せていただくとよいと思います。

現代部会長 助役と収入役ですね。

委 員 教育長も、でしょうか。

現代部会長 そうですね。

委 員 市民にアンケートをとったことがあります。清瀬に住み続けたい理由をきくと、緑が多いからという回答が多くありました。こうした市民の側の資料は、市史にはなじまないものですか。

現代部会長 行政史ではなく市民の歴史なので、そういった資料は載せていきたいと思えます。

委 員 第3章、第5章は1節だけで構成するのですか？節をいくつか立てて内容がわかりやすいつくりにした方がよいと思えます。

現代部会長 たとえば時期を分けるなど、工夫してみます。

委 員 長 ほかによろしいですか。では、このような形でよろしいでしょうか。

委 員 了承

### 3. 専門部会活動状況について

委 員 長 各部会から活動報告をお願いしたいと思います。新しく民俗部会ができ、高久先生に部会長をお願いしました。委員会は今日が初めてです。まず民俗部会長の高久先生からお願いします。

民俗部会長 民俗部会の部会長を担当させていただきます帝京大学の高久です。よろしくお願ひ致します。民俗学、特に民俗芸能を専門としております。もともと現代部会でお手伝いできることがあればということで、第9章を担当しています。そのうえで、資料だけでは見られない、聞き取り調査が中心となる民俗調査でも見て行きたいと思っていましたので、これからよろしくお願ひいたします。

活動報告について、【資料II】をご覧ください。部会は6人で構成しています。現在を視点としながら生活の変化、コミュニティの変化を描いていくことを方針といたします。

民俗に関しては、すでに博物館から報告書がたくさん出ています。それぞれ特化した内容になっていて、全体を見て行くと、どのような人がどのような活動をしているのか、祭りや芸能を同じ人がやっている可能性は高いのですがそのあたりがよくわからないので、そのあたりを中心に見て行きたいと思えます。

内容としては、ムラの生活のほかに、病院街の生活、団地の生活を加えることで清瀬の特徴が出ると思えます。結核療養に関しては別にまと

めるのですが、病院街の生活については、そこで暮らす人たち、つまり病院を出て生活する人たち、特に商店街ができていく過程でコミュニティが形成されていくと思うのですが、ライフストーリー的にそれぞれのお話を描いていければと考えています。団地の生活について、民俗学でも多くはありませんが研究されていますので、そうした視点から、団地の自治会、祭りが始まったり、盆踊りが始まったりというところから、ふるさとの醸成がおこなわれているはずなのでそこを中心に見て行きたいと思います。そのうえで特色のある民俗ということで、うちおりなどをとりあげられたらと考えています。

民俗行事については、羅列的に書くのではなく、行なっている人々、組織を意識的に描いていこうと考えております。石仏石碑や年中行事についても報告書などがございますので、こちらが補完できるところをしていくというように考えています。

私見ですが、民俗編は生活文化ですので、完成後に市民のみなさんが自ら調べるきっかけになるものを作りたいと強く思っております。そのために見やすさを重視した形で作っていこうと思います。

それぞれの地域に一人ずつ入っていくという形をとらせていただこうと思っております。

民俗部会の活動と今後のスケジュールということですが、今年度に入り6月8日に部会を行ない内容を確認しました。7月に市内を巡見、どういうものがあるのか、中心となるところを見て回りました。

大きなスケジュールとしては令和8年度に刊行ということですので、事務局とも相談しながら進めていきたいと思っております。

最後に、委員から事務局へのお願いとしまして、地図がほしいということ、それから民俗独特なのですが、調査にうかがってお話を聞く際に、怪しい者ではありませんという証拠が必要なので名刺をお願いしましたところ、早速作成いただいて配布しております。

住民への民俗調査の告知について、こちらではどうしていらっしゃるか把握していないのですが、民俗の方では、よくチラシを作りまして、こういう調査をしています、こういう人たちがやっています、お持ちの古い写真などあればご提供くださいということで、調査先で配ったりします。見かけた方が声をかけてくださることがあるので、こちら事務局にお願いしているところです。

情報共有に関しては、ウェブのクラウドを活用していこうと考えています。

以上がご報告となります。

委員長            ありがとうございます。従来の民俗と言われている分野、あるいはイメージとはずいぶんちがうところもあると思いますが、なにかご意見、ご質問などあればお願いします。

委員                現代の視点から、というお話がありました。昔のことについて、また地元の人々の生の声を聞こうと思った場合には、初めのコミュニケーションの取り方が問題になります。事務的に行くと抵抗を示すことがありますので、やはりキーパーソンを見つけてその辺りから入っていかれる方がよろしいかと思っております。過去にも例があって、事前に下打合わせに行って話を聞かせてください、というときにはいろいろ話してくれるのですが、市役所から職員が来てテーブルを取らせてください、というような

ことになる、そこまでやるのは、と断られてしまったことがあります。せっかくいい情報を持っていてもしり込みされる方もあるので、その辺をうまく工夫する必要があるかなと思います。

民俗部会長 去年、清瀬小学校の同窓会があるということでお声がけいただいたので、部会の何人かでお邪魔しましてお話を伺いましたところ、たくさんお話をしてくださって、そこから少しずつ間口を広げていこうと。もうひとつは獅子舞やふせぎの保存会などで中心になられているときに、実際にこの前、獅子舞に行ってきたのですが、調査に入って、そのなかで、少しずつ会長さんを中心にお話をうかがいながら広げていこうかなと、そのようにしておりますが、どういうことを話し、何が掲載されるのかということが心配されることだと思いますので、口頭でもそうですし、委員会や編さん室から繰り返しお伝えしていくのが一番かなと思います。

委員長 よろしいでしょうか。

委員 私は昭和6年生まれですが、先輩方がほとんどいなくなりました。この前も、私の2つ上で村のことをよく知る中清戸の人が亡くなりました。昔のことを話そうにも相手がいないので、なかなか、ということになる。戦前の話は、私にはたいしてできないし、私の父親の昭和の日記を黒川先生が見てくれていて、そこからわかることもあると思いますが、それですべてではありません。どんなふうにやっていくのがいいのか。書いたものをためていくのか。現代編の目次を見て、たいへんだなと思いました。

現代部会長 資料を確認して、こういう項目が立てられる、というものを出したものなので、聞き取りというより、資料の表だとお考えいただきたいです。

民俗部会長 高齢の方で、少し前までは大正生まれの方のお話が聞けていたのですが、今はもうなかなかむつかしくなっています。現在の視点と書きましたが、現代や近代のように明治の資料を使って何かをするというのではなく、今生きている方にお話を伺って最大限のところまで時代をさかのぼりたいと考えています。お話しくださる方の記憶、お話しくださった方のお父さんから聞いた話、というのも民俗の資料になってきますので、世代を越えて伝承している事を聞き取り調査からうかがっていき、そのうえでそれを書きとっていくことを考えています。

委員 民具は扱わないのですか？

民俗部会長 部会の調査員のなかに民具の専門家もいますので、どうしようかと思いい検討しているところです。念頭にはあります。

委員 生活道具の使い方、生活技術を知っている方が亡くなっていく。すると、残された民具がどういうふうに、何のために使われていたのかが記録できなくなってしまう。残っているモノは、使い方を知っている方からの聞き取りでこそ生きてくると思いますので、大変な調査だとは思いますが、切り捨てないでいただけたらなと思います。

民俗部会長 　　なりわいと衣食住のなかでお話をききながら、機織りも含め、農作業の道具の使い方など、お話を聞きとっていくことはできると思うので、大量にある民具をどう結び付けて提示できるかが問題かと思います。

委 員 　　特色ある民俗についてカッコがついているのは何故ですか？

民俗部会長 　　すでに報告書があるテーマについて、調べ直すのか、報告書をまとめた方にご協力いただいたうえで書くか、というところで検討中につきカッコをつけているところです。ただ、調査をしていくと私たちの知らなかった特徴ある清瀬の民俗が出てくるだろうと思っているので、それを書ければと思っていますが、今後の検討を要することだと思います。

委 員 　　さきおりについて知る中で、残せるようなものではないのだけれど家庭に密着していて、恥ずかしい文化だと思って話をしてくださる方が減っていると聞いたのですが、ザ・リサイクルなのにもったいないと思ったことがあったので、ぜひとりあげてほしいです。

委 員 長 　　ありがとうございました。ほかはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。では、民俗部会については以上としまして、考古部会について部会長の谷口先生からお願いします。

考古部会長 　　では簡単に今年度の活動報告をいたします。  
まず6月26日に第1回考古部会を開催しました。考古の資料編は来年度末の刊行を目指しておりますので、刊行スケジュールを策定しました。目次、ページ数、執筆要綱、巻頭カラーページについて、具体的に検討して方針を決めております。

スケジュールとしては、今年度末に原稿を締め切って、来年の7月くらいまでに編集し、入稿したいという方針を決めました。執筆や編集の分担についても決めております。これが、ひとつです。

もうひとつ、資料調査を進めています。下宿内山から出土した資料の再調査に力を入れています。調査されてから今日までの間に研究が進展していますし、周辺地域で関連する資料もだいぶ増えていきますので、現在の研究視点から再評価することが大事だと考えています。ひとつは中世末から近世を中心とした陶磁器類の再調査です。産地の鑑定を含めて、愛知県の埋蔵文化財センターの鈴木正貴さんという専門家の方にもおいでいただいて再検討を進めた結果、産地についてこれまでの理解と違っているものも含まれていることもわかっています。

今日も作業しているのですが、古代の須恵器、土師器についても資料を全部出して再検討しているところで、そちらもおそらく土器編年上の位置とか年代観についても少し理解が変わってくると思います。そういった資料調査を進めております。

委 員 長 　　ありがとうございます。各部会の報告については全部が終わってから質問等をお受けしたいと思います。

古代・中世部会長の浅倉先生は今日ご欠席ですが、部会の活動状況についておまとめいただいたものがありますので、私の方で読み上げます。

古代・中世部会は調査によって収集した古文書の画像データについて、一点一点にデータ情報を付すなどの整理を行なったうえで編さん室に保存できる方向での作業を続けている。膨大な資料量のため、本年度から来年度以降に継続する予定である。なお、引き続き山内上杉氏文書などの補遺調査についても検討していきたいと考えている。また、資料編を活用しながら市民のみなさまに活動の一端を紹介する講演会なども昨年に引き続き企画していただければ部会として全面的に協力したいと考えている。

このような連絡をいただいております。

続きまして近世部会についてです。『清瀬市史 4 資料編 近世』をなんとか出すことができました。800 ページほどになりました。今年度は、ここに載せられなかったものについて報告書を出したいと考えています。

「御用留（ごようどめ）」という、領主からの触書、達し書きを村で書き写してためておいた法令集、ノートのようなものですが、資料編には1点だけ載せたのですが、載せられなかった7点について同じような形態で100 ページほどになりますが、これを報告書として出していきたいと思います。

それから、通史編を数年のうちに作らなくてはならないので、検討を始めているという状況です。

近代部会の吉田先生も本日ご欠席なのですが、代わって黒川先生からお願いできますでしょうか。

現代部会長

近代部会については現代と共同作業なので、現代の作業を進めながら諸家文書のなかの近代資料を複写、収集しているところである、ということです。

現代部会については、さきほど資料編の構成についてお話しましたが、刊行に向けて執筆を進めているところです。以上です。

委員長

ありがとうございました。ひと通り各部会からお話いただきましたが、何かご意見、ご質問ありますでしょうか。  
よろしいでしょうか。

委員

了承

#### 4. 『市史研究 きよせ』第8号について

委員長

では次に、『市史研究 きよせ』について、事務局からお願いします。

事務局

『市史研究 きよせ』第7号を皆様のお手元にお届けしたところですが、第7号には現代部会による清瀬リハビリテーション学院関連の記事、古代・中世部会による古文書調査報告、考古部会による伊勢遺跡出土の旧石器紹介等を掲載しました。

「石碑・石仏探訪」のコーナーでは、齊藤隆雄委員が「下宿一丁目の石塔」についてご紹介くださいました。ありがとうございました。

第8号について、執筆のご希望がありましたら事務局までお声がけく

ださい。

委員長 みなさま、よろしくご協力ください。

## 5. 市史講演会について

委員長 次に、市史講演会について、事務局からお願いします。

事務局 市史講演会は、刊行した市史の PR を兼ねて企画していますので、資料編を出したばかりの近世部会にお願いできればと思います。販売機会としても調整したいと考えています。

委員長 さきほど、古代・中世部会の報告のなかに、講演会の企画があれば全面的に協力するというお話がありましたので、調整をしながら実施できればと思います。  
そういったことでよろしいでしょうか。

委員 了承

## 6. その他

委員長 その他につきまして、なにかございますでしょうか。

事務局 次の委員会についてですが、委員会の開催は年 2 回ですので、次回は年度末 3 月を予定したいと考えております。

委員長 次回委員会は 3 月予定ということですが、よろしいでしょうか。

委員 了承

委員長 他にいかがでしょうか。

事務局 ご報告です。お運びいただいた方も多いかと思いますが、2 月 1 日から 7 月 31 日まで郷土博物館展示ロビーにおきまして、市史編さん室企画によるテーマ展示「結核療養と清瀬」を公開しておりました。

今回の市史の 1 冊として、結核療養にまつわる歴史をまとめ『清瀬市史 9 結核療養』を刊行することが決まったことを受けての企画で、これまでの調査で収集した資料、また結核予防会からご提供いただいた資料等を展示しました。

期間中 4 月 11 日には結核予防会総裁であられる秋篠宮妃殿下に展示をご覧いただく機会を得ました。

おかげさまでたいへん好評で、600 名を超える多くの方にご覧いただくことができました。

委員長 他にいかがでしょうか。

委員 村の名前を並べて言うときのことですが、昔からの習わしで、上清戸、

中清戸、下清戸、下宿、中里、野塩、という順で言っています。

それから、農地改革のことなども含め、なかには不名誉な内容のことが扱われる場合には、書き方が難しいと思います。

現代部会長 不名誉な内容、問題が発生しそうな資料では、名前、番地は、「(中略)」とするなどして伏せて、資料が示すのはどこの土地かわからないようにして掲載します。

民俗部会長 個人情報について、委員会でなにかルールが決まっていますか？

委員長 委員会として定めた規則といったものはありませんが、近世の例で人権問題にかかわるものは、「(中略)」として処理しました。  
部会ごとの判断で、委員会に諮るということによいでしょうか。

委員 名前を伏せると、旧市史の「古老」の例が示すように、信ぴょう性に欠けることにもなりますので、根拠を擁立できる方法を検討していただきたいです。  
読者としては、本人が了解であれば名前を載せてほしいと思います。

委員長 ご意見ありがとうございます。ほかによろしいでしょうか。

委員 了承

## 7. 閉 会

委員長 これで、令和4年度第1回清瀬市史編さん委員会を閉会いたします。  
ありがとうございました。

『清瀬市史 6 資料編 現代』の主な内容について (2022. 8. 4)

- 第 1 章 清瀬のすがた**  
 昭和 13 年の地誌  
 昭和 36 年の地誌
- 第 2 章 昭和恐慌から戦争へ**  
 第 1 節 政党政治から戦時体制へ  
 政友会と民政党  
 選挙粛正運動  
 第 2 節 恐慌と戦時下の行財政  
 村役場移転問題  
 区長設置  
 各種団体への支出  
 第 3 節 戦前戦中の産業  
 農会・産業組合・農業会  
 第 4 節 戦前戦中の交通・鉄道  
 東京青梅電気鉄道  
 武蔵野鉄道・西武鉄道  
 第 5 節 戦前戦中の防災  
 消防組  
 第 6 節 戦前戦中の教育  
 昇進小学校  
 青年訓練所  
 昇進農業公民学校  
 青年学校  
 青年団  
 第 7 節 村と戦争  
 徴兵  
 在郷軍人分会  
 演習  
 コラム  
 第 8 節 昭和戦前期の伝染病予防と医療  
 結核療養所  
 伝染病対策  
 健民運動と体力増強  
 コラム
- 第 3 章 青年学校の世界**  
 第 1 節 日誌の中の青年学校  
 青年学校日誌 昭和 10 年～19 年度から  
 適宜  
 コラム
- 第 4 章 戦後改革から町制施行へ**  
 第 1 節 戦後改革と革新村政  
 村会リコール運動
- 分村運動
- 第 2 節 清瀬町の誕生**  
 町制施行  
 昭和の大合併（隣接町村との組み合わせの動向）
- 第 3 節 戦後の農業と商工業**  
 農地委員会  
 農協  
 供出
- 第 4 節 戦後の交通**  
 西武鉄道糞尿輸送
- 第 5 節 戦後の生活と社会運動**  
 日本農民組合
- 第 6 節 戦後教育の出発**  
 清瀬小学校校舎増築  
 中学校校舎新築
- 第 7 節 戦後処理と引揚**  
 照空隊兵舎処分  
 大和田通信所建物処分  
 引揚者  
 不発弾  
 平和の塔
- 第 8 節 戦後の医療施設の整備と検診**  
 昭和病院規約  
 アフターケア施設  
 感染症予防  
 コラム
- 第 5 章 農地改革下の村**  
 第 1 節 農地改革・農地委員会への異議申し立て  
 農地改革異議申立書  
 不在地主からの異議申立て  
 コラム
- 第 6 章 高度経済成長と清瀬**  
 第 1 節 人口急増下の市政  
 保守と革新  
 財政  
 第 2 節 清瀬市の誕生  
 町役場第二庁舎新築  
 市制施行  
 町名変更  
 第 3 節 農業や商工業の発展

- 清瀬市農業協同組合
- 第一清瀬農業協同組合
- 商工団体
- 工場誘致
- 大林組技術研究所
- 第4節 交通の発達
  - 団地と駅を結ぶバス路線
  - 清瀬駅南口道路整備
  - 清瀬駅橋上化
  - 国鉄武蔵野線開通
- 第5節 団地とベッドタウン化
  - 団地の申し込み案内
- 第6節 高度成長期の教育
  - 人口急増下の小学校開校
  - 所沢からの越境通学
- 第7節 医療制度の改革と健康問題
  - 病院街と市民生活
  - 新しい健康保険制度のはじまり
  - 環境衛生の整備と公害問題
  - コラム
- 第7章 安定成長からバブル経済へ[昭和50年代から平成2年]**
- 第1節 都市化の中の市政
  - 保守市政と革新政党（掲載に適していない資料が多い）
  - 労働組合の動向
- 第2節 近郊都市の行政
  - 人口増加とインフラの整備
  - 様々な公共施設の建設
- 第3節 都市農業と商工業の変化
  - 商店街の変化
  - 清瀬駅北口再開発
  - 近郊農業の展開
- 第4節 変わる交通
  - 清瀬駅・秋津駅周辺整備
- 第5節 都市化と農村
  - 自然を守る会
  - 緑地の保全
- 第6節 教育問題と地域
  - 市民体育祭
  - 小中学校・高校（いじめ問題の資料は掲載に適していない）
- 第7節 衛生的な環境づくり
  - 下水道の整備
  - 河川の水質改善
  - コラム

## 第8章 平成不況下の清瀬[平成3年～平成23年]

- 第1節 平成の市政
  - 環境問題（ダイオキシン）
  - 循環型社会（リサイクル）
  - 市民参加型まちづくり
- 第2節 不況下の行財政
  - 緑地保全と相続税
  - 緊縮財政
- 第3節 変わる農業と商工業
  - 農協
  - グルメ
  - 清瀬駅北口
- 第4節 交通の課題
  - 放置自転車
  - 清瀬駅・秋津駅周辺整備
- 第5節 労働運動の再編と市民生活
  - 連合の結成
- 第6節 少子高齢社会の教育
  - 少子化と小学校の統合
- 第7節 高齢者社会と健康づくり
  - 健康の増進
  - コラム
- 第8節 阪神・東日本大震災と清瀬
  - 阪神大震災
  - 東日本大震災

## 第9章 文化財の保存

- 第1節 文化への意識と文化財指定
  - 獅子舞
  - 富士塚
  - 火の花祭り
  - 万作
  - ふせぎ
- 第2節 博物館の建設と市民
  - 博物館建設
  - 森田家住宅
- 第3節 新たな祭りの創出
  - 竹丘祭り
  - 清瀬祭
  - 文化祭・商工祭
  - コラム

## 統計・データ編

- 広報掲載の月毎の人口統計
- 歴代市長・議長等

清瀬市史編さん委員会 民俗部会報告

2022/8/4

1 民俗部会メンバー

民俗部会長 高久舞（帝京大学文学部専任講師）

民俗部会員 〈50音順〉

伊藤新之輔（國學院大學大学院）

伊藤純（川村女子大学准教授）

川嶋麗華（國學院大學助教）

鈴木昂太（東京文化財研究所研究補佐員）

神かほり（神奈川大学日本常民文化研究所客員研究員）

俵木悟（成城大学教授）

山本拓人（武蔵野ふるさと歴史館学芸員）

2 『清瀬市史 民俗編』の方針、構成案、内容、担当について

(1) 方針

「現在」を視点とし、生活感覚の変化、コミュニティの変化を描く

(2) 構成案（定期的に構成は検討）

1 ムラの生活（野塩、下宿、中里、上清戸、中清戸、下清戸）

① 社会生活：ムラにおける交際（親族の交際、町会組織など）

② 生業と衣食住

③ 年中行事と人生儀礼

④ 民間信仰（講、寺社）

⑤ 祭礼、民俗芸能（口承文芸）

→②③は特にそれらに特化した報告書は刊行されていない。どれだけ調査できるかわからないが、可能な限り調査する。

2 病院街の生活

- ・病院街について。「ムラの生活」とは異なり網羅的に把握しにくい。
- ・ライフストーリー的な記述
- ・商店街については記録が少ないので目を向けてほしい。

3 団地の生活

(4) 特色のある民俗 うちおりなど

### (3) 内容

- ・地域社会の交際、生活のなかでの互助共同、新たなコミュニティの形成（病院街のコミュニティ、新住民とのつきあいなど）
- ・『清瀬の民俗行事と民俗芸能』など博物館刊行の報告書の活用
- ・いずれの項目も内容を羅列するのではなく、行っている人々（組織）を意識して描く
- ・石仏に関しては既存の地図、報告書を確認する。そのうえで、写真撮影（伊藤純担当）。
- ・年中行事に関係する写真撮影は随時行う（伊藤純担当）
- ・市史は完成後に市民が自ら調べるキッカケになるようなものであるため、読みやすさの点から論文調にはしない。

### (4) 担当

野塩：伊藤純　中里：鈴木昂太　下宿：山本拓人　下清戸：伊藤新之輔  
中清戸：神かほり　上清戸：川嶋麗華　病院街：俵木悟　団地：高久舞

## 3 民俗部会の活動と今後のスケジュール

2022年6月8日 令和4年第一回民俗部会

2022年7月30日 巡見



## 4 その他

- (1) 委員から事務局への提案として
  - ・1 万分の 1、住宅地図を各委員へ送付
  - ・従事者証、名刺の準備
  - ・住民への民俗調査の告知
- (2) 情報共有について
  - ・web クラウド（google ドライブ）の活用